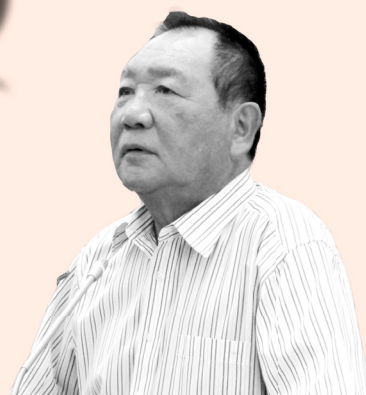


災害や水害への対応は



笠原則孝



町長

地域防災体制強化等の施策を実施

質問 70年前の昭和22年9月15日のカスリーン台風は玉村町にも甚大な被害をもたらした。
地球温暖化の影響もあり、今や千年に一度のことが起こり得る時代となってしまったが、このような災害や水害に対する町の対応は。

答弁 町長 町では玉村町第5次総合計画後期基本計画に基づき、防災対策の充実に向けた施策を行っている。施策の内容は、建築物の耐震化の推進や、地域防災体制の強化、災害時の相互支援体制の充実などである。

千年に一度の災害が起こったとしても、対応できるようにするために、日頃の訓練が重要と考える。県や防災関係機関と緊密な連携の確保に努め、減災に向けた取り組みを実施することで、住民の安全・安心に役立てていきたい。



新橋完成はいつになるのか

新橋建設調査業務の進捗状況は

質問 新橋建設の調査費として、今年度432万円の予算を計上し、6カ月が経過したが、その活動が一向に見えてこない。どうなっているのか。

答弁 町長 新橋建設の調査業務を、8月2日に（株）ニュージエック群馬事務所と319万3560円で委託契約した。現在、一回目の打ち合わせが終了して業務を進めている。

コンサルタントのノウハウを最大限に活用し、新橋建設の早期実現につながるよう業務を進めていく。

環境美化のための条例制定を求む

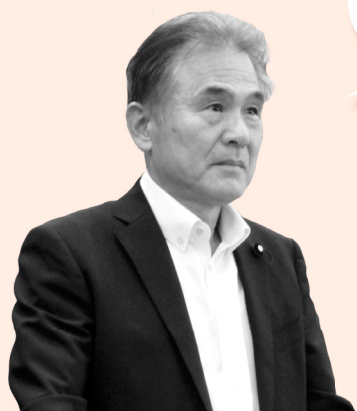
質問 いまだに犬の糞や食品の食べ残しが道路等に放置されていて、恥ずかしく思う。町の対策は。

答弁 町長 狂犬病の予防注射時や広報誌での啓発のほか、放置に困っている方には、防止を呼びかける看板等をお渡ししている。こうした対策を継続的に実施し、モラルや意識の向上に取り組んでいきたい。

質問 改善が見られないのであれば、罰則のある条例を制定すべきでは。

答弁 生活環境安全課長 県内で制定している自治体もあるが、対象者の特定が困難なため、実際には難しいのが現状と聞いている。

利根川の洪水対策は十分か?!



月田均



町長

樹木の伐採等を計画している

質問 五料橋上流には近年河川内に樹木が生い茂り、また川底が上がってきているように感じる。せき止められた水が土手からあふれ出してくる危険も感じるが、町の対策はどうか。

答弁 町長 五料橋周辺は国の管轄区域であり、河川事務所に確認したところ、河川内の土砂や樹木の繁茂は、洪水時の障害になることから、平成27年度に一部伐採し、今年度は民間の公募による伐採を実施予定と



五料橋から見た利根川

のことである。

また、土砂の堆積については、五料橋下流について撤去を行っていると聞いている。

文化財等の保存を求む

質問 町政に取り組んで1年半、玉村町の文化財についての町長の感想は。

答弁 町長 先人が築きあげた歴史ある貴重な文化財を後世に引き継ぐことは我々の大きな責務と実感している。

質問 道標など、身近な所にも歴史遺産があり、大切にすることが必要と思う。これらを保存するためのアクションを取ることは可能か。

答弁 生涯学習課長 地域での保存の取り組みを支援していきたい。

ふるさと納税の実績は

質問 平成27年度までは順調に推移してきたと思うが、28年度の実績はどうか。

答弁 町長 平成28年度寄附受け入れ額は1897万円で、29年度個人住民税減収額1638万円を差し引くと259万円の黒字となった。今年度はより多く町を応援してもらえよう、魅力的な返礼品の検討を行っている。

質問 納税で一番大切なことは何か。

答弁 税務課長 公平・公正な課税と徴収である。

質問 ふるさと納税をした人に返礼品を送ることは、税金を減額することになり、公平・公正の原則上、問題だと思いませんか。

答弁 副町長 ふるさと納税については賛否両論あり、「制度上問題あり」と考える人もいる。一方、大都市に集中する税財源を地方に配分する意味もある。町としては今の制度の中で黒字になるよう努力していくことは大事と考える。